

「デート DV・よりよい人間関係づくりのためには」

保健・体育部会は養父市立中学校にて、3年生道徳「デート DV」について授業研究会をおこないました。授業者である養護教員が事前に学年教職員と授業内容について打ち合わせをおこない、具体的な事例を出してのロールプレイ等、子どもの心理的負担やフラッシュバック等に留意しました。また、授業後には授業内容と子どものふりかえりを記載したお便りを作成して配布しました。

『学年教員によるロールプレイ』

とあるカップルの日常のようすを「スマホを勝手に見られそうになる」、「即レスを要求される」、「服装を指定される」等の5パターンで担任と学年教職員が演じ、「好きな人のスマホは勝手に見ても良い」、「付き合っていたら一秒でも早く返信するべきだ」など、自分がされたら嫌だと感じる価値観を子どもに選んでもらいました。そして、好きどうしなのにどうしてこんなモヤモヤが起きてしまうのかということから、人によって「ここまではOK、ここからはいやだ」と感じる「境界線」が異なることを確認しました。

『OK、モヤッとチェック』

自分の「こころ」、「からだ」、「行動」、「お金」といった境界線を理解するために「境界線チェック」をおこないました。項目は「友だちにテストの結果を聞かれるのはOKかモヤッとかな」といった日常生活のさまざまな場面で経験するもので、アンケート集計機能を活用し回答を円グラフで提示しました。子どものふりかえりから「自分は平気なことでも、嫌だと思う人がいることに気がついた」といった境界線の違いを認識したコメントが多く見られました。

『同意』

『OK、モヤッとチェック』の結果から、人によって境界線は異なることを理解しましたが、境界線は可視化できず、時と場合や相手によっても異なることからどうすれば境界線を大事にできるのか考え、「同意をとる」ことの大切さについて確認しました。同意はノリノリのOKのみが成立し、無言、相手が断れない状況でのOKは同意ではないこと、その都度同意をとることが必要なことについても確認しました。

『境界線を守るためのセリフを考えよう』

自分は自他の境界線を意識して生活していても、誰かから境界線を破られてしまうことはあるため、自他の境界線を大切に、相手を尊重したうえで断り方について考えるワークをしました。人によっては断るという行為はかなりのエネルギーが必要になるため、どうすれば自分を消耗せず相手を傷つけずに断れるのか悩んでいる子どもの様子もうかがえました。

事後研究会では、「プレゼンテーションソフト等の活用はよいが、画面が流れていってしまうため、大事なポイントは板書で残すとよい」、「チェックリストはモヤッとではなく、嫌だと言い切ってもいいのではないか」、「タブレット活用で今まで見えなかった意見が見えるようになったが、授業のどこかで対話活動が必要ではないか」等の意見がありました。また、協力研究所員から「性暴力被害の相談先などをきちんと押さえた方がよい」、「相談の具体的なスキルについてもふれるとよい」等多くの指導助言をいただき、学びの多い事後研究会となりました。

保健・体育部会では、子どもを中心にすえた「わかる・できる・楽しい授業」をめざし、今後も研究を続けていきます。

(本授業の授業案は「組合員専用ページ」⇒「各部会研究授業 指導案等」に掲載しています。

ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください。) ★兵教組HP 組合員専用ページ⇒



保健・体育部会授業研究会

